

アダプトプログラムの参加インセンティブの分析

宮城県仙台二華高校	川村 夏美
宮城県仙台二華高校	伊澤 千華
宮城県仙台二華高校	馬場 裕樹
東北大学大学院情報科学研究科	福本 潤也

1. 目的

アダプトプログラム（以下、AP）は環境保全のために企業・市民などのボランティアが河川のゴミを収集する取り組みである。同プログラムの持続には参加者の活動継続意思が大きく関わる。広瀬川一万人プロジェクトをフィールドとした先行研究¹⁾では、参加回数により参加動機の規定因に差があることが明らかにされた。そのような差が生じるメカニズムを解明することは容易ではないが、本研究ではその前段として、参加経験の蓄積と参加動機を規定する諸要因の強度の関係を明らかにする。

2. 使用データ

先行研究では一万人プロジェクトの参加経験者を対象とするアンケートを実施した。本研究でも同調査の結果を使用する。アンケート調査では、実行委員会に加入する計 126 団体の河川清掃活動経験者に対してアンケート調査の協力依頼を行った。回答者は WEB 上で質問項目に回答させた。

継続意図の規定因の尺度に関して 37 個の質問を行った。各設問では「AP 活動に参加して満足感を得られたか」といった問に対して、「強くそう思う」から「全然そう思わない」までの五件法で回答させた。AP 活動の評価に関わる尺度として「個人的便益」、「個人的費用」、「有効性評価」の 3 個を、同活動の参加規範に関する尺度として「愛着」「川との関わり」「地域環境意識」「環境問題意識」「ソーシャル・キャピタル(SC)」「組織帰属意識」「組織便益」の 7 個を設定した。最初の 5 個は地域住民としての地域環境保全の役割に対応し、残りの 2 個は組織構成員としての CSR 活動への貢献の役割に対応する。

回答者の参加回数は図-1 に示す通りである。1 から 3 回の回答者が全体の約半数を占めている。

3. 分析方法

分析は以下の手順で行う。最初に、参加回数が 1 ～3 回の層と 4 回以上の層に分けた上で、継続意図の規定因の尺度の点数の平均点を求め、図-2 に示すようなグラフを作成する。次に、参加回数の違いにより、どの尺度の点数が 2 つの層間で異なるかを比較し、参加経験の蓄積が参加動機に与えるメカニズムについて考察する。現在、以上の分析作業を進めており、学会発表時までに成果をまとめて報告したい。

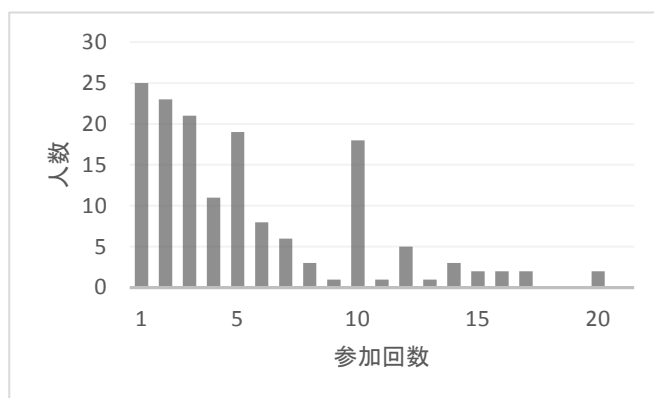


図-1 参加回数の分布

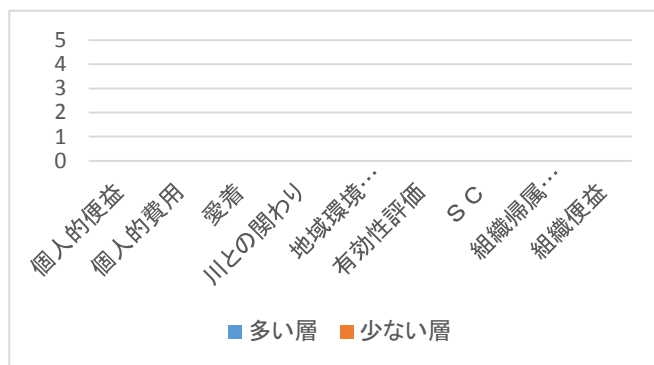


図-2 参加回数と尺度の関係（モデル）

参考文献

- 1) 福本潤也, 畠山樹, 渡辺一輝 (2018) : 建設系企業・団体職員の河川清掃活動の継続意図の規定因